

高めよう！地域の防災力

地震などの大規模な災害は、いつどこで起きるか分かりません。
もし、あなたの住む地域で起きたらどうしますか？
今月は、いざというときに備えて取り組まれている、地域の防災活動を紹介します。



西区防災訓練でのバケツリレーによる初期消火訓練

西区 防災訓練

西区役所では、毎年8月30日～9月5日の「防災週間」に合わせて、町内会などの住民組織や消防署、警察署などの関係機関と協力して防災訓練を実施しています。今年も八軒小学校をメイン会場に約780人が参加し、マグニチュード7.3、最大震度7の地震発生を想定してさまざまな訓練が行われました。



非常食の炊き出し・配給訓練



煙道通過訓練



看護師による応急救護訓練

防災訓練は継続が大切

参加者の多くは、慣れない訓練に最初ごちなさがありました。班長の指示で何度も繰り返しているうちに、だんだん手際が良くなりました。八軒連合町内会でも年に数回、防災の講習などを実施していますが、せっかく行った訓練の内容を忘れてしまわないよう、継続することが大切です。

八軒連合町内会 森脇 茂さん
防犯防災部長

訓練当日、八軒会館などに集合した参加者は班長の指示の下、地域の被災者を救助しながら八軒小学校に移動。続いて、倒壊家屋からの負傷者救出や初期消火、非常食の準備などを体験しました。

西区防災訓練では一部に「発災対応型訓練」という手法が取り入れられています。これは、参加者に訓練の詳しい内容を事前に知らせず、実際の災害を疑似体験する形で行われる訓練です。

訓練参加者の声

の声

